

「勉強会」の予告

1月18日(水)、下甕島(しもこしきじま)で楠木正成家の墓守りを代々務める和田家の総代が、グルンパ運動家の飯山一郎氏に電話、「元日本郵便副会長の稲村公望先生をお呼びし、古代から中世にかけての日本の歴史について、語り合う勉強会を今春あたり志布志市で開催して欲しい」という内容だったという(具体的な日時および場所は未定)。さらに総代は電話口で、「菊の御紋を家紋とする和田家の秘話を勉強会で披露する。それにより、南北朝の争いの謎、天皇家の金塊の謎等も全て明らかにする」と飯山氏に語った。

日本の古代～中世

- (1) **飛鳥時代(592～710年)** : 大化の改新(645年)に先行して、蘇我氏(仏教派)と物部氏(神教派)が九州で繰り広げた戦い。
- (2) **南北朝時代(1336～1392年)・室町時代(1336～1573年)** : 同じく九州で南朝と北朝が志布志で激しく戦い、南朝が敗北、南朝の生き残りは下甕島に逃亡した。
- (3) **江戸時代(1603～1868年)** : 江戸中期、下甕島に逃亡していた南朝側の子孫が、薩摩に聳える金峯山の麓に移住、準備を整えた上で長州の熊毛郡・田布施へと向かった。

和田家 : 下甕島で代々楠家の墓守を務める一族。遙か昔において楠木正成の楠家は和田姓であった。そして、楠家と和田家の家紋はどちらも菊の御紋、すなわち天皇家を守護する奉公衆である。楠家は武家(戦闘)専門だったが、下甕島の和田家は戦闘の他、表および裏(諜報・防諜)の外交も担当、今日に至っても天皇家に仕えている。

肆部合(しぶあい)の石碑



肆部合の石碑は、足利尊氏に南朝討伐の下知(命令)を受け、熾烈な戦いを志布志の地で繰り広げた北朝側兵士の供養塔である。尊氏が南朝討伐の下知を下したほどの南朝側の人物とは、一体「誰」だったのか…。そして、南朝の血統を守り抜いてきた下甕島の和田家とは…。

※ 詳細は以下のサイト参照。

<http://iiyama16.blog.fc2.com/blog-entry-7836.html>

<http://iiyama16.blog.fc2.com/blog-entry-7837.html>

http://www.city.shibushi.lg.jp/docs/2013091200219/files/tano-shibushi_06_0810.pdf

[平成29年1月21日(土)作成]